明日も君と

PrinceLanga × Cindereki

SK∞ unofficial fanbook

毎度お馴染みのやつ

魔法で移動するつもりが腹斜筋から漏れた方に当たったみたいで…

ここは一体…？

ランガ王子
最近大理石の階段で
レールスライドして普通に怒られた

シンデレキ
王子とラブラブな娘さん
オメガ的な解釈しています

…という小話を入れようとしましたが
綺麗に着地できなかったのでここで供養します

空きページがもったいないので
ハイヒールでちょっと王子より大きくなる
デレキちゃんが好きだと主張します

いついかなる時も王子をお守りできるよう

ギラリ

鍛錬をしろシンデレキ

すぅ

すぅ

すぅ

……は？

早朝なんスけど…
今この瞬間刺客が来たらどうする
ええ…？
すう
すう
くー…
くー…
いけしゃあ…
いけしゃあしゃあ…
いさという時王子のそばにいるシンデレキが最後の砦だ
近しい者が寝返った時の危険はよく知っているだろう
お前じゃん寝返ったのお前じゃん

アーーッ
私は王子をお守りするべき侍従長だが
同時に愛抱夢の犬でもある
なんでそれ両立できんの？
バッハッハッハッ
残念ながら愛抱夢が今王子を拐えと命令したら
多分拐う
アハハハハア
じゃあやめろ侍従長を
クゥ〜〜ン…
クゥン…
というわけで最低限私に対抗出来る様に
後で鍛錬をしろシンデレキ
早朝に来た意味はなんなんだよ
その時に来い！
朝方考え事すると心配事が増えるんだ
二度寝しろ

シャッ
しーん…
ん～～～…
のびーー
今何か話してた？
もう朝？
やまだ寝てていーぜ
そうなんだ朝になる前にレキに会えて嬉しい
ニコ…
おはよう
おはよ朝から輝度が高えなぁ…

王子
本日シンデレキは
私と花嫁修行です

え…
もう結婚してるのに？

はい

そう…なんだ

じゃあシンデレキ
昼に会えたら
嬉しいけど…
夜は一緒に滑ろう

おー！
ランガも
がんばって

…でぇ？

とりあえず王子を拐う私を阻止できるようになってくれ

抗えないんだ

1番の脅威が侍従長ってどうなんだよ…

今この場で戦うとしたらどうする

え？

う～ん…

!?

ボ…

ボードで叩く！

あ、でもガラス割れるかもしんねえ

ぐちゃ

サ…!!

そんなところで才能を開花させるんじゃない

今何の才能が開花してんの!?

これを使え
刃物
ガチのやつじゃん…
これは小型だから仕込みやすいし慣れれば扱いやすい
ピュッ
パッ
ピッ
パッ
パッ
こいつ……自分を攻撃させるための武器の説明してるクレイジ〜…
ドレスを着ている時でもレキは収納場所に困らないだろう
布が余る体型でよかったな
遠慮なく失礼なやつ
王子のためだ扱いに慣れるよう日頃から触れ

もう一つ体を鍛えろ

王子を誘き寄せるためにシンデレキを拐えとも言われかねないからな

ランがぐ〜ん

おいでえ〜

エサ

断れねーのそれさぁ…

しキ〜ッ

魂に犬が刻まれている不可能だ

侍従長を辞めるのが一番安全なんじゃ…？

イヌヌメン

マッスルマジックジョーのところでトレーニング？

俺の知ってる花嫁修行と違うね…

レキの国では
そういうのが
主流なのか？

んなワケ
ねーだろぉ
びっくりした〜
やっぱちょっと
特殊だよな〜

レキが自分の身を
守れるように
なるのは良いけど
怪我したら
嫌だな…

ランガの為
だけじゃ
じゃねーよ

愛抱夢に
渡したくない

ぴぴっ。。。

こえて…

俺がお前を
守れるなら
それが
一番いいんだ

俺がジョー位
ムキムキに
なっても
離婚しない？

するわけ
ないだろ！

俺くらいの筋肉量に？

まぁ…時間はかかる…だろうな…？

じゃあムキムッキになれない？

ぼゅ

ぼゅ

可能性はゼロじゃないさ

ただ今は筋力増強が目的だろ？

シンプルなトレーニングで充分だ

ぷしゅん…

ぷしゅん…

ぼゅ

メモもやるから毎日コツコツ続けろよ～

じーー

こうしてシンデレキの地道な花嫁修行は続いた

おっ 侍従長！

ナイフ慣れてきたぜ！

力加減が繊細な表現のキモだよな～

表現…？

チャ…

さっき仕上がった新作だ！

彫刻刀にするな

ジャーン!!

ここんとこのカーブが綺麗に彫れてさ～

デレキちゃんの工房

ルンルン

ルンルン

思っていたのと違う方向で慣れてきたな

体の方はどうだ

普通にキツい
ぬうううううううう
あと1分♡
あと30秒♡
終わり！
やったー！
ガバッ
えっ!?
え?!
がっちり
むぃ
へむ

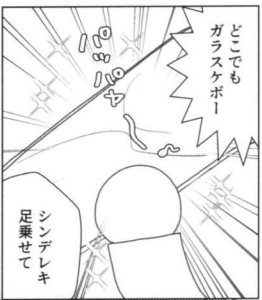
ムチュー
……
ばかっ
!!
れっ
!!!
びく
じゅう
ギ
まだ途中なんだけど！
すすすすす
ふふ
うん

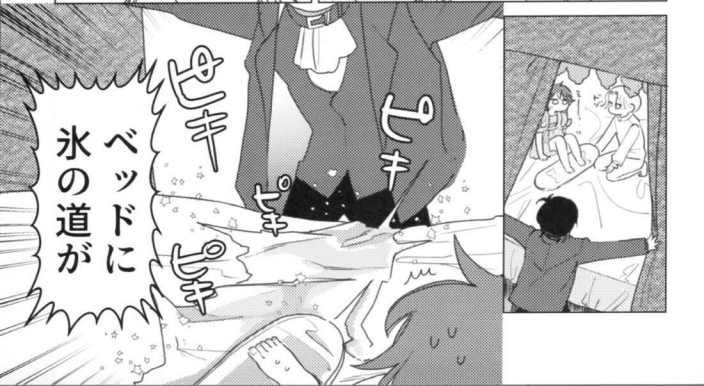
くるり
ポス
冗談だよ
俺のこと
もっと
構ってレキ
チュ♡
もぉ〜〜〜〜〜

ん？
ぐっ
スッ
スッ
スッ
スッ

はい
2分
えっ
えっ
おっ
キッツイ
ぎし…♡
ぎし…♡
ぎし…♡
ぎし…♡
うぐ
うぐ
私の心配をダシに
いちゃつかれている
気がする…

シンデレキ
今私が王子を拐おうとしたらどうする！
ジャーー
ピクッ
凹凸を掘り込んだボードで筋肉を活かし叩く
思ったより実践的になっている





これでスネークは近づけない！

トゥルン トゥル トゥルン トゥル

わち わち わち わち わち わち

な…なるほど！

なるほどぉ…？

それでいいのか

ダッ ダッ ダッ ダッ

スケートライフが充実しただけだった

後日

ジャッ

靴にスパイクを仕込めば氷の道を歩けてしまう気がする

だァから早朝に来んなって

ぐぅぐぅ…

スペシャル∞サンクスな
サイコーゲスト様々ページです!! わーい!!

シンデラレちゃん
キャわわわ!
2023.ぬそ

レ〜キ♡
やっと見つけた♡
げっ
ランガ王子……

？
げって何…
いやっえ〜っとスネークに王子が仕事しないから一緒に滑るの控えてくれって言われてて…
日ぎょどど…

……
そっ
レキは俺と滑りたくない？
すっ
キュン
シュン…

そりゃ滑りたいけどさ〜!!!
イチャ
イチャ
ラブ
ラブ

Happy End… ありがとうございました！ ちゃぴ

王宮の結婚の儀を頑張ってこなすシンデレキ

中世ヨーロッパでは初夜には多くの貴族が寝室に入って来て見守ったとか何とか（床入り確認儀式）☆
ささきさんの御本にお邪魔して恐縮ですが、とっても幸せです☆ありがとうございました!!
（コルセットしてなくても腰細いレキにビックリする お話書きたかっただけでわかりにくくてすみません） よりま @ yorimiro

俺は馳河ランガ
最近大好きな暦と付き合いだして とってもFUN!
俺ってランガ!
!?
でも暦はすごく恥ずかしがり屋だから恋人らしいことを全然できていないんだ
そんな時俺たちの前に別世界から来た俺たちが現れて…!?
ここまでたらればっぱ
転移伝法 使ったら別世界に来ちゃったみたい♪
おめでとうございます この世界の俺たちは
お前達なんなの!? 増えたの!?
ええ…!? 俺と暦が王子と姫…!?
しかもめちゃくちゃイチャイチャしてる…っ!
いいいたず! 夫婦なんだから それに好きな人に気持ちを伝えられるのってとっても幸せなことなんだぞ
テレ テレ
シンデレラ♡
幸せ…
暦…?
二人が別世界に帰った後 暦はとっても積極的になってくれて たくさん好きを伝えてくれるようになった!
がちゅ
ありがとう 別世界の俺たち!
!!!
ラン暦、どんな世界でも2人の「幸せ」を見つけてくれ〜〜っ!! というようなことが描きたかったんです!(?) ラン暦ハッピーエンド〜!! お読み頂きありがとうございます!!!♥♥ 茶色

甘い休日の朝に必要なもの

朝はいつも自然と目が覚める。

子供の時からの習慣だ。王子として幼い時から学ぶべきことが多かったからか、ぎゅうぎゅう詰めのスケジュールに体が慣らされてしまって、休日でもそれは変わらず、自然と朝日が登る頃には意識が夢の中から浮上してくるのだ。

――隣で眠る愛しの伴侶曰く、俺は早寝早起きの健康優良児とのことだけど。

「……今日は大人しいな」

カーテンに覆われたベッドの中はまだ少し薄暗い。ゆっくりと体を起こして、寝息を立てているシンデレキを見下ろした。

部屋に掛かった空調の魔法は効いているはずだけど、昨晩は雪が降り続いてずいぶん冷え込んだからだろうか。いつもは豪快に羽毛布団から手足をはみ出させているレキが、今朝は体を猫のように丸めて布団の中に収まっていた。

「ん？」

でもよく見ると、一通り大暴れはしたらしい形跡が見えてきた。下ろしたまま眠るとクセがついてしまって大変だからといつも纏めている赤毛は、シーツの上に大輪の花のように広がっているし、ネグリジェの襟元のリボンも解けて健康的な色の肌が覗いている。

俺はもうすっかり慣れて、レキが夜にどれだけ動いても起きなくなったけれど。相変わらずの寝相に、初めて一緒に眠った日のことを思い出してふっと笑いが漏れる。

気持ちよく寝ているところを蹴られた時は、レキに本気で共寝を拒否されたのかと泣きそうになったのも懐かしい思い出だ。

「肩冷えるよ、レキ」

震えた肩に毛布を掛ければ、少し寄っていた眉がふっと緩んで、穏やかな寝顔へと変わる。レキは俺の寝顔を天使とか妖精とか言ったりするけど、レキの寝顔も凄くかわいいと思う。

しっかりものでいつも元気なシンデレキが、力を抜いたあどけない様子で寝ている姿は俺しか見られない、俺の宝物だ。

跳ねやすくてやっかいだとレキは言うけれど、俺は大

好きな―― 城に来てからすっかり櫛の通りの良くなった長い赤毛を指で梳く。

髪を撫でると肌にも触れたくなって、ついその頬に触れると、伏せられた睫毛が震えた。うぅんと鼻に抜ける声と共に、真っ赤な髪とよく似合う朝陽のような瞳がゆっくりと俺の姿を映す。

「……みすぎ、だろ……お前はいつも……」

「だって、いくら見つめたって足りないから」

滑らかな肌を指で撫でると、寝起きの熱だけではない赤みがシンデレキの肌に灯る。明るい色の瞳はとろりと蕩けていて、その様子にもまた笑みが溢れる。朝しか見られない、ぽやぽやのレキだ。

「おはよう、シンデレキ」

「おはよ……お前ほんと、朝から元気いい……」

ふぁあと欠伸を噛み殺した声からはいつものような勢いは感じない。それでも、その言葉にふと、髪に触れる手は止まった。

俺の早起きはただの昔からの習慣で、公務とか王子としての知識を効率よく詰め込むために必要だっただけだ。ただ起きて、そこにもなんの感情もなくて、休日もぼぅっと過ぎていくだけで――

(俺が朝をこんなに楽しみになったのは、お前と出会ってからだよ、シンデレキ)

城で一緒に暮らし始めてから、ベッドを共にするようになってから、朝が待ち遠しくて仕方なくなった。

シンデレキ、初めて一生懸命になって求めた相手。

どれだけ見つめても足りない、俺の特別。

「俺はできるだけ長く、レキを焼き付けていたいんだ」

愛おしいと伝えるように、首筋を指で撫で上げてから頬を手で包み込む。覗き込んだ眩しい瞳に映った俺は、自分でも見たことがない程に緩んだ顔をしていた。

しょうがない、俺はレキが俺と居ることを選んでくれた日から幸せで仕方ないんだから。

「らんが……」

もぞりと毛布の中で何かが蠢いたと思った瞬間、飛び出してきたレキの大きめの手が俺の両頬を包んだ。そのままぐっと力を込めて抱き寄せられて―― ぎしりとベッドのスプリングが音を立てると共に、鼻先に柔らかなものが触れる。

ちゅっと軽い音を立てて離れたソレから覗く赤い舌に、

起きたばかりなのに体の中に熱が込み上げてきそうになった。レキの触れている俺の頬はきっと、とてつもなく熱くなっているに違いない。

「レキ……！」

「……お前、見てるだけで満足なわけ？」

朝陽のような瞳に俺の髪が影を作り、夕暮れのような妖しさを漂わせる。いたずらっぽい笑みに、心臓がドクンドクンとうるさく音を立てた。

ああ、やっぱり俺のお姫様は、シンデレキは最高だ。眩しくて、温かくて、惹きつけられて止まない俺の太陽。

「満足なんてしないよ、全然」

その光に誘われるように――愛しい人との日々に感謝をするように、俺は腕の中に在る幸せに口付けた。

〈fin〉

◇シンデレキ最高！ランガ王子とシンデレキの結婚生活を書けてとっても楽しかったです！

ささきさん、お招きいただきありがとうございました！

鶏ハム

素敵なゲスト様様方ありがとうございました！！！！！！
エスケーエイトは最高のアニメなのでファンアートは見せていただけるかもだけど
シンデレキはお願いしないと拝めるか分からないですからね
サイコーのシンデレキをありがとうございました！！！！永久保存！！！！！

人払いを
ジョーはまだか？
ザッ！
今到着したようです
おいスネーク！ランガは…!?

外傷はないが呪いの類を受けたようだ
くるん
キッ
ほたてだな
どわ
の…呪い…？

これは…『欲を解放する紋の呪い』！
!!
エッチなヤツだな…
欲を満たすまで消えないぞ！

淫紋…

胃紋だ

ハァ…

ハァ…

ハァ…

ハァ!?!?!?

桃タイプか…!

ポワ〜ン

ハートでは?

く…

レキ…
お腹が空いたんだ…

とろ〜ん♡

はぁ

はぁ

は…

どっちとも取れる
発言するな

ご飯モリモリ
食べたら消えた

はだかフリルエプロン

明日も君と
20230212
SK∞ FANBOOK＃7
発行：路地畑トマト：ささき
連絡先：pixiv：247367
Twitter：@lanrekichankawa
印刷：関西美術印刷様

マシュマロでございます
ご感想等頂けたらめちゃめちゃ嬉しいです！

※禁止事項※

Presented by Rojibatake Tomato